

2020年度 大阪教育大学男女共同参画推進事業 活動結果報告

ダイバーシティ教育とジェンダー、セクシュアリティ

～大学内外に発信していくために必要なことは～

表現活動教育系 保健体育部門 特任准教授 貴志 泉

1.目的

2015年に国連で採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」のSDGs NO. 5「ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを実現しよう」実現が日本においてかなり難しいことは、世界経済フォーラムの2020ジェンダーギャップ指数121位が示している。しかし手をこまねいていても変化はしない。教育の分野の91位ということだが、教員養成を担っている大学自身がトップダウンで変革を促す時期に来ていると考えている。本学教養教育ポリシーに「…また、「多様性理解」については、グローバル時代の教育の鍵が多様性の受容にあると考え、これまで本学が培ってきた人権教育並びに国際理解教育等の蓄積を**多様性(ダイバーシティ)理解**という観点で発展させていくものである。」と書かれている。この多様性理解の先にジェンダーそしてセクシュアリティが存在すると自覚している本学の教養教育ポリシーに敬意を示したい。現在、教養基礎必修科目であるダイバーシティと人権の存在も外に向け発信できるもので、すべての教員養成課程をもつ高等教育機関でぜひ押し進めてもらいたい。

その一方で、変革をボトムから促進する活動も重要である。上からだけでなく足元の授業からも変わっていきうということが目的である。本プロジェクトは保健体育に関わる教員の卵にジェンダー、セクシュアリティをそれぞれ独立して学習するのではなく、関連付けて学習していくもので、キーワードは「自分事」である。他人事でなく自分の身近な問題としてダイバーシティを考え、ジェンダー、セクシュアリティを自分のものとして捉え授業化していくことを目的として活動を設定した。また、図書館を巻き込み、関連図書を充実させ大学内にアピールすることで、ジェンダーやセクシュアリティで悩む当事者への大学側のメッセージにもなりうるし、教員を目指す多くの学生のボトムアップを考えている。さらにこれは本学大学生へのメッセージだけを意図しているのではなく、この図書館を巻き込んだ企画を大学外に発信することで、教員養成に関わる高等教育機関が変わっていくことを企図した。

2.活動の取り組みと成果

本年度の活動は以下のとおりである。

- 担当する授業「教職入門」「保健体育科教育法Ⅳ」においてトピックとしてジェンダーそしてセクシュアリティをダイバーシティと絡めながら授業構成をおこなった。教職入門では性的マイノリティとジェンダーについておこない、相談を受けたときの対応を課題にした。

スポーツとジェンダーで課題をだしたが、期待した自分事としての課題には届かなかった。対面の授業の必要性を実感させられた。保健体育科教育法では、ダイバーシティとジェンダー、ジェンダーとセクシュアリティを企画した。やはり対面でおこないたかった。学生の回答への対応が遅れてしまい自分事になる機会を逸してしまった。やりとりの中で修正していく対面式の授業で結果を求めたかった。しかし、ジェンダーとセクシュアリティの接合課題である「性的同意」を授業化する指導案づくりでは個人課題になったが、アクティブラーニングを利用した指導案が提出されていた。これは「紅茶のすすめ方」動画を使った指導案づくりを提案した。授業化しにくい「性的同意」を動画なら受け取る生徒も見やすいと考えてくれ、及第点のものが並んだ。(※1)

○図書館を巻き込む企画であるが、次年度の5月21日の世界多様性デー周辺と11月25日女性に対する暴力撤廃デー周辺で、入口近くの企画展コーナーに図書約54冊とDVD2本で学生を迎えるつもりでいる。また、ゲストスピーカーを招いてミニ講座を企画したが、コロナ禍で来てもらうことができず企画倒れになった。

コメント付きの図書リストを作成したので、これを添付する(※2)

○所属している思春期学会、日本体育学会で発表する予定が、自分の発表内容不足で出せなかった。すべてコロナ禍の影響といえないが、発信を次年度におこなうこととした。

3. まとめと今後の取り組み

課題を出して応えさせる方式では、行動変容を促すことが難しく、提出された小レポートを読む限り固定観念を崩すところまでいくことができなかった。次年度は対面式授業の中で学生と議論できるよう準備をしたいと考えている。

また、図書館イベントとゲストスピーカー招聘はぜひともおこない、大学外にアピールしたいと考えている。

4.添付資料

※1

ダイバーシティ教育とジェンダー、セクシュアリティ

～大学内外に発信していくために必要なことは～

コメント付き書籍紹介 2021

LGBTQ

① 13歳から知っておきたいLGBTQ+

アシュリー・マーデル (著), 須川綾子 (翻訳) 出版社: ダイヤモンド社

他の本との違いは、性的マイノリティも様々だと言っていること。きれいに定義づけしようとするステレオタイプ化させてしまう。性とジェンダーの多様性に関心のある人を対象にしている。

② LGBTを読みとく キア・スタディーズ入門 (ちくま新書)

森山至貴 (著) 出版社: 筑摩書房

キア・スタディーを、基本概念を明示することで入門書化した。後半部分の研究の方向性を示したことがすごく印象的。

③ LGBTとハラスメント (集英社新書)

神谷悠一 (著), 松岡宗嗣 (著) 出版社: 集英社

LGBTへの勘違いという言い方は気に入らないが、LGBTに限らない勘違いという言い方で勘違いという発言を批判の俎上に載せようとしている。

④ はじめて学ぶLGBT 基礎からトレンドまで

石田仁 (著) 出版社: ナツメ社

「この1冊で可能な限りLGBTについて網羅した本」をコンセプトにしたそう。著者は「この本への批判をふくめた反応が議論を進める」と語っている。著者による性の多様性、そしてセクシュアリティとジェンダーの絡み合いへの眼差しがあふれている。

⑤ LGBTヒストリーブック 絶対に諦めなかった人々の100年の闘い (PRIDE叢書)

ジェローム・ポーレン (著), 北丸雄二 (翻訳) 出版社: サウザンブックス社

主にアメリカのヒーローとしてのキーパーソンについて語った本。この本がLGBTQの現代史研究を照らすものであることは疑いもない。一方で、序章と終章でレズビアンのカップルの子育てと運動について触れている。市井の市民である二人の行動が大きくなうねりを導き、「Act locally」の強さこそ「日々のヒーロー」とたたえられている。

⑥ 「ふつう」ってなんだ? LGBTについて知る本

殿ヶ谷 美由記 (著), ReBit (監修) 出版社: 学研プラス

「ふつう」ということばに惹かれた。「男の子、女の子そしてふつう」にどれだけ苦しみ、悲しい思いをし、辛い経験があるのか。できるだけ減らしたいものだ。「ふつう」だと思っている人も読んで共感してほしい本。できれば ALLY（共感する異性愛者の仲間）にも触れてほしかった

⑦ 先生と親のための LGBT ガイド：もしあなたがカミングアウトされたなら

遠藤まめた（著） 出版社：合同出版

クラスには 1 人性的マイノリティがあると考えて授業やクラス運営をおこなうことは現在当たり前だと思う（願いを込めて）。当事者である子どもを取り巻く親や教員への、当事者であり子どもたちを支援してきた著者からのメッセージでいっぱい。整理されているので理解しやすい。

⑧ 日本と世界の LGBT の現状と課題

LGBT 法連合会（編集） 出版社：かもがわ出版

2018 年に出された私学 3 大学による SOGI（性的指向・性自認）の多様性に関する学長共同宣言。日本学術会議も 2020 年性的マイノリティの権利保障を目指してというトランスジェンダーに関する提言を出している。この本は、法律面から日本の LGBT の現状そして将来への展望の発信を意識している。LGBT 法連合会が考える将来へのステップを示している。

⑨ LGBT ってなんだろう?--からだの性・こころの性・好きになる性

薬師 実芳（著）他 出版社：合同出版

登場する当事者やその親の声を読むことをお勧めする。次に登場する Ally Teachers' Tool Kit を使った授業実践報告も載っている。マジョリティの視線マイノリティの視線をうまくさばいている。だからこそ教員を目指す大学生に読んでもらいたい一冊である。

⑩ 中学校向け「Ally Teacher' s Tool Kit (アライ先生キット)」中学校向け教材

特定 NPO 法人 ReBit

LGBTQ 当事者に寄り添える仲間を ALLY（アライ）といいます。「多様な性ってなんだろう」というテーマは小学生向けと一緒だが、DVD の進行はアライグマ先生ではなくなる。全国の学校でこれをアレンジして授業化してほしい。

⑪ 小学校高学年向け「Ally Teacher' s Tool Kit (アライ先生キット)」小学校向け教材

特定 NPO 法人 ReBit

このキットの中には道徳としての指導案も入っている。とてもいいねい書かれていて驚いた。授業の展開よりもねらいや設定理由、資料説明に重きを置いていることが実感できるキット。MC のアライグマ先生がとてもいい。

⑫ セクシュアリティの多様性を踏みにじる暴力と虐待 差別と沈黙のはざままで

アムネスティ・ジェンダーレポート 7

アムネスティ・インターナショナル編 現代人文社

人権という視点で 2003 年世界の性的マイノリティへの暴力や虐待を描いている。性の多様性を否定し単一社会で国家を作ろうとしていることを告発している時から 18 年。何が変わ

って何が変わっていないのか比較検証することが大事。

⑬ カミングアウト・レターズ

RYOJI+砂川秀樹（編） 出版社：太郎次郎社エディタス

当事者と親や教員との往復書簡で構成されている。親が受け入れることと当事者のカミングアウトの葛藤が波のように寄せてきては離れていく。他人事として読むか自分事として読めるか大事なところだと思う。「たまには帰っておいで。あなたの家はいつもここにあります」そう言ってくれる人が増えますように。

⑭ Seach きみがいた

平安名祐生、恵（著） 出版社：徳間書店

性同一性障害の当事者である二人が出会いカップルになり結婚。その二人の今に至るまでの自分史が語られた本。

⑮ へんな子と呼ばれて ちくまプリマー新書 -

吉永みち子（著） 出版社：筑摩書房

強く明るく昭和平成を駆け抜けてきたミッシェル近藤からあなたは何を感じますか？ミッシェルの生き様から何を学習しますか？母にも妹にも「あんた」と言い合う中、父親だけがそこに入らなかった。高校生に本の書評を課題として出していた時、生徒から持ち込まれたのがこの本。

⑯ スカートはかなきゃダメですか？

名取寛人（著） 出版社：理論社

NY トロカデロ・デ・モンテカルロバレエ団の日本人ダンサー名取さんの物語。スカートが嫌でジャージ登校していたそうだ。様々な壁やハードルを乗り越え、男性だけのバレエ団で活躍。現在は長崎県壱岐島で塩づくりに挑戦中。リモートでバレエダンスのインストラクターもおこなっている。

⑰ カラフルな僕ら

スーザン・クークリン(著) 出版社：ポプラ社

アメリカ6人のLGBT当事者がどのように自分の性と向き合い、自分らしい生き方へ踏み出していったのかを追った翻訳ノンフィクション (amazon. から転用)

本当に社会で認知されるようになったのであろうか。マイノリティからの露出が増えてきた。企業では当然のことであり法や行政も変わりつつある。最後に残るのは何か考えてしまう。教育者として何を支援し寄り添っていくべきなのか。

セクシュアリティ

① 国際セクシュアリティ教育ガイダンス【改訂版】

ユネスコ（編集）、浅井 春夫（翻訳）他 出版社：明石書店

ユネスコが WHO などと協力して作成した、性教育のガイダンスつまり指針を日本語訳した書籍。5歳から18歳までを4段階に分けて内容を定めている。2018年に東京都足立区の中

学校で起こった性教育バッシングも、このガイドンスに沿って言えば「世界標準」から逸脱した行為である。

② 教科書にみる世界の性教育

橋本 紀子 (著) 池谷 壽夫 (著) 田代 美江子 (著) 出版社：かもがわ出版

オランダ、フィンランド、フランス、ドイツ、イギリス、オーストラリア、中国、韓国の性教育を示したうえで、日本の現状に対する問題点を洗い出し、今後の提言をおこなっている。

③ 世界中の女子が読んだ！ からだと性の教科書

エレン・ストッケン ダール (著) ニナ ブロックマン (著) 出版社：NHK 出版

ノルウェイ発の性の教科書。確かに 36 か国で翻訳出版されただけのことにはある。知識の面だけでなく、性的同意など自己決定権とジェンダーのことなど女性はもちろん男性も読むべき本である。

④ 0 歳からはじまるオランダの性教育

リヒテルズ 直子 (著) 出版社：日本評論社

民族や人種の多様性、性的指向やジェンダーの多様性を肯定したうえで意見の異なる人との関係性を構築しようとするオランダの性教育がていねいに掘り下げられている。この国から何を学ぶべきなのか、

⑤ メグさんの女の子・男の子からだ BOOK

メグ ヒックリング (著) キム・ラ フェイブ (イラスト) 出版社：築地書館

ヒックリングさんは性教育実践家。その根幹にあるのは自分の体は自分のもので、他人のものではないという信念。ここを押さえてすべての性の学習（性教育）は進むべきである。

⑥ 高校生のジェンダーとセクシュアリティ

須藤廣 (編著) 出版社：明石書店

21 世紀に入る当時の様子がみえる。グループ討議する高校生とのやりとりを読んで、20 年後書物的には変化が大きく感じる。では学校という場で変わったのだろうか。男子大学生の部活後の会話を聞いているとホモソーシャルでミソジニーな様相が見えるが。

⑦ 10 代の少女のためのガイド

グループ・ウィズネス (編) 出版社：明石書店

性虐待の被害者向けにカウンセラーやセラピスト、相談員が解説し語った本。いい本だなと感じる点は 2 つ。1 つは被害を受けた人を大切にしている姿勢。そして、被害を知らされた人への対応メッセージを記していること。性虐待の多くが家族や知り合いが加害者だということもしっかりと記している。

⑧ A Child is Born 赤ちゃんの誕生

レナルト・ニルソン (著) 出版社：あすなる書房

1987 年に NY で購入した写真集の 5 版最終版になる。精子の活動、排卵の瞬間から受精、着床、妊娠から出産までを体の内部から撮影されている。ただただすごい写真集である。最近の研究で精子は弾丸のように回転しながら卵管まで移動するといわれている。すごい。

絵本

① タンタンタンゴはパパふたり

ジャスティン・リチャードソン（著）ピーター パーネル（著）ヘンリー コール（イラスト）出版社：ポット出版

NY セントラルパーク動物園で起こった本当の物語。ヒゲペンギンのロイとシロはオス同士のカップル。飼育員のロブが試しに放っておかれた卵を抱卵させたら見事に成功してタンゴが誕生。初めて父親が二人で抱卵した家族が生まれたのである。翻訳した尾辻かな子さんはLGBTをカミングアウトした初めての国会議員。

② いろいろ いろんな かぞくのほん

メアリ ホフマン（著）ロス アスキス（イラスト）出版社：少年写真新聞社

家族のありようは多様である。両親がいてもさまざま、単親家庭もさまざま。祖父母が養育している家族もあれば、養父母の家庭や施設で育つ子もいる。多様な家族の中にはLGBTの家族もいる。いろいろな家族が不利益を被ることなく子育てができる社会づくりが大事。

③ あっ!そうなんだ!性と生—幼児・小学生そしておとなへ

浅井 春夫（著）北山 ひと美（著）他 出版社：エイデル研究所

性教育向けの絵本。サブタイトル「幼児、小学生そしておとな」がとてもいい。他人事のように読み聞かせるのではないというメッセージを発している。他人感のある「家族もいろいろ」ではない、自分事として見聞きした「いろいろな家族」の重さ。すべて実感した読み聞かせは難しくても、思いを寄せた読み聞かせは可能である。

④ 大切なからだ・こころ

いがらし あや（イラスト）村瀬 幸浩（監修） 出版社：少年写真新聞社

この絵本を紹介した理由はひとつ。それはプライベートなところに触れているから。下着や水着で隠されているところは自分だけが触れるところ。ひとつ足りないところは、知らない人に声をかけられるといったこと。知っている人からの問題が問題なのである。

⑤ 性についてはなそう 全7巻

村瀬幸浩（監修）木谷麦子 貴志泉 他 出版社ポプラ社

性の絵本であるが、ジェンダーやダイバーシティへの眼差しも持っている。1993年の絵本で多様性受容を示せたことを誇りに思っている。主人公の6人の生きざまへのリスペクトにあふれている図書館向け絵本集。

⑥ 性の絵本1～6+おうちの人から辛いことをされているので助けて 全7冊

たきれい（著） 出版社：株式会社キンモクセイ

5歳くらいから思春期までをターゲットにした性の絵本。読み手である子どもたちを意識して作られている。性的同意について取り上げているのが新しい。番外編として「**おうちの人から辛いことをされているので助けて**」を独立して取り上げた。**性虐待で苦しんでいる子どもへのメッセージとして最適な巻。**

ジェンダー

① ボーイズ男の子はなぜ「男らしく」育つのか

レイチェル・ギーザ(著) 富田尚子(訳) 出版社：DU BOOKS

「人はジェンダーに関係なく、タフさと優しさ、勇敢さと繊細さ、競争心と思いやりという、人間に備わるあらゆる性質を同時に持つことができるのだ」カナダ、トロントに住む著者が子育てをする中で感じたこと、男性性をていねいに分析している。第5章のスポーツはいかにして男の子をつくりあげているのかでは、どのような取り組みがなされているのか学ばせてもらった。

② 性とジェンダー 別冊日経サイエンス

日経サイエンス編集部 出版社：日本経済新聞出版

科学の目で性のすべてを説明できるのかということ NO! である。ジェンダーと絡み合って存在する性、セクシュアリティに気づかされる。トピックをつなげていくと、性とジェンダーとの関わりを知ることができ、それらが社会(政治)とつながることがわかる。

③ ジェンダーとわたし

笹川あゆみ(編著) 出版社：北樹出版

大学生向けジェンダー入門書。最終章の性の多様性とジェンダーにこの書のミッションを感じた。全体として「違和感」をキーワードにしている

④ これからの男の子たちへ

太田啓子(著) 出版社：大月書店

途中3度の性やジェンダーをターゲットにしている関係者へのインタビューが挟まっていて効果的。男の子の成長に関わる全ての人、そして男の子当事者への著者からのメッセージがトピックとして盛りだくさんに語られている。

⑤ ジェンダー入門

加藤秀一(著) 出版社：朝日新聞社

ジェンダーとは何なのか、読んだ後に定義できたのか、自分に問う必要があった。著者は生活の中に隠されているジェンダーを引っ張り出し評論していく。だからこそ読者は読み終わった後自問自答すべきである。なぜジェンダーなのか。

⑥ 男子問題の時代

多賀 太(著) 出版社：学文社

第7章の初めにあるように、日本における男子研究の少なさは、「ふつう」に隠れ男子をステレオタイプ化している教育現場の危うさを表している。ていねいにこびりついているものをはがしていけば、学校の男子、家庭での男子が見えてくると思う。これからの研究に期待したい。

⑦ アクティブラーニングで学ぶジェンダー

青野篤子(編著) 出版社：ミネルヴァ書房

それぞれの章担当者が必ずしもアクティブラーニングを授業で行っていない印象を受けた。それでもディベートや話し合いを方法として勧めている。補章での各トピックへのアクティブラーニング化コメントが、発展的にそれぞれの章に置かれるようにしてほしい。

⑧ 女子マネージャーの誕生とメディア

高井昌吏 (著) 出版社：ミネルヴァ書房

僕はマネージャーと「女子マネ」を分けて使用している。おにぎり女子礼賛のいわゆる「女子マネ」が日本にしか生息できないことを学んでほしい。タイトルからでもわかるが、メディアがどれだけ男性優位や女性蔑視を生んできたのか考えるべきである。

⑨ スポーツする身体とジェンダー

谷口雅子 (著) 出版社：青弓社

日本に限定してスポーツ界のジェンダー規範について研究内容を公開している。個人的にはプロ野球の捕手を「女房役」と見てきた社会とその変化を語っているところに興味を持った。監督と選手の関係性も同様である。2020年東京五輪・パラリンピック組織委員会での会長発言が大きく取り上げられたが、組織委員会の男女構成が半々だったら出たのであろうか。ホモソーシャルな場であるから出たのではないか。箱根駅伝での「男だろ！」が出る背景も同様ではないか。10年以上経っても価値が色あせない書籍である。

⑩ ブルマーの社会史

高橋一郎、萩原美代子、谷口雅子、掛水通子、角田聡美 (著) 出版社：青弓社

20世紀の女性用スポーツウェアであったブルマーを通して、主に女性向け学校体育のあり様を覗くことができる本。学校は女子学生に何を求めていたのか、女子学生が求めていたものが何なのか、ブルマーにくっついてきたものが徐々にみえてくる。

⑪ 日本のジェンダーを考える

川口章 (著) 出版社：有斐閣

ジェンダーにつながる諸問題を切り口別に事例を出して解説した入門書になっている。日本のあるべき社会についての提言も述べられている。

⑫ 続はじめて学ぶジェンダー論

伊田広行 (著) 出版社：大月書店

セクシュアリティとジェンダーが密接な関係にありことを示している。また、それらを家族単位での発想からシングルという一人単位での発想に転換しようというのが著者のいいぶんである。

⑬ 「男女格差後進国」の衝撃：無意識のジェンダーバイアスを克服する

治部れんげ著 小学館新書

ジェンダーギャップ121位をどう改善していくのか。行政からのアプローチ、企業からのアプローチ、教育からのアプローチ、女性個からのアプローチの程度を語ってほしい。網羅的であっても読者に気づかせることができたとしても、自助に頼るものではないと考える。時間でいえば、企業の感覚は鋭く速い。行政や教育はゆっくりしている。では個へはど

うすればうち響くのか。実感としては公助のテンポを上げてほしい。

⑭ 少女マンガジェンダー表象論

押山美知子（著） 出版社：アルファベータブックス

少女マンガにおける「男装の少女」にスポットを当てて評論を行っている。「リボンの騎士」「ベルサイユのばら」などに登場する男装女子をジェンダーで切っていく。闘いを「男性」の視点でしか見ることができなかつた人に読んでほしい。

⑮ 女性たちの保守運動

鈴木彩加（著） 出版社：人文書院

研究者の立ち位置を明確にしたうえで女性たちによる「保守運動」をていねいに掘り下げ解きほぐそうとしている。社会的にマジョリティに立っていない女性が、なぜ家族や性の多様性に逆向きになるのか。「保守運動」そのものが持つ性差意識をどう受け入れるのか、僕も女性国会議員の発言を聞いていて疑問をもつことがある。次の研究につなげてほしい。

ダイバーシティ、SDGs

① 僕はイエローでホワイトで、ちょっとブルー

ブレイディみかこ（著） 出版社：新潮社

ブレイディみかこさんの子育て日記。「多様性ってやつは物事をややこしくするし、けんかや衝突が絶えないし、そりゃないほうが楽よ」「楽じゃないものがどうしていいの?」「楽ばっかりしていると無知になるから」多様性を著者と共有できますか?

② 真のダイバーシティをめざして

ダイアンJグッドマン（著） 出口真紀子、田辺希久子（訳） 出版社：上智大学出版

自分が受けたいじめは強く印象に残るが、加害者としてのいじめは無自覚になることが多い。ではどうすればいいのか。この個の感覚を社会構造にまで押し広げ、マジョリティによるマジョリティの特権を気づかせようとしている。捉え方を変えることで自分の立ち位置を客観視することが可能になる。

③ ダイバーシティ・トレーニング・ブック

森田ゆり（著） 出版社：解放出版社

1990年代にカリフォルニア大学でダイバーシティ・トレーナーをしていた著者が帰国後記した『多様性トレーニングガイド』を企業や行政向けに絞った内容になっている。授業でも即戦力になるアクティビティがどっさり。そのアクティビティをこなしながら逆に原理原則を考えるとダイバーシティの根幹が見えてくる。

④ 人権教育への招待 ダイバーシティの未来をひらく

神村早織、森実（著） 出版社：解放出版社

本学の森先生、神村先生の共著。第1章学校・子ども・人権のジェンダーとセクシュアリティでは、「ふつう」「当たり前」を疑い、「ジェンダー平等」を異なる眼差しで見ると幻想が浮かび上がるという。ベースは同和教育であり人権教育にあるが、ダイバーシティを受容し

構成する未来社会を考えたとき、必須なことがまとめられている。

⑤ 虹色チェンジメーカーLGBTQ 視点が職場と社会を変える (小学館新書)

村木真紀(著) 出版社：小学館

NPO 法人虹色ダイバーシティの村木真紀さんのライフヒストリーと企業の状況の 2 部構成である。企業編最後に書かれている「企業としても、担当者の方個人としてもぜひ、LGBTQ も働きやすい職場環境づくりのために行動できるアライになっていただけたらと願います」(強調は貴志) ここがすべてだと思っている。

⑥ 知る・わかる・伝える SDG s

阿部治 他(著) 出版社：学文社

第 4 章のタイトルが「ジェンダー平等を実現しよう」。全体を通して、まず知ろう、そしてわかろう(理解しよう)、伝えよう(外に向かって発信しよう)で一貫している。教育という視点を意識して書かれた書籍である。ちなみに国連が提唱しているのは「ジェンダーの平等」ではなく「ジェンダーの平等と女性のエンパワーメント」で意味合いが異なる。

⑦ 国谷裕子と考える SDG s がわかる本

国谷裕子(監) 出版社：文溪堂

学校向け書籍で、SDG s を網羅的に解説した本である。ターゲットは中学生くらいで、ジェンダーギャップ指数などを取り上げている。これを読んでから個々のテーマに入り込んでほしい。

⑧ 多文化社会で多様性を考えるワークブック

有田佳代子(著) 他 出版社：研究社

ダイバーシティを学ぶワークブックとしてわかりやすい本。第 4 部ミニワークに載っている「自分の価値観を客観視しよう」ワークシリーズ、大事なことで、これだけでも価値が大きい。ふつう、常識を疑うことがダイバーシティでもジェンダーでも考えるうえで大事。

※2

「保健」指導案作成

本時のねらい

- ・性に関する正しい理解を基に、身体的な成熟や性的な発達に対応した適切な行動がとれるようにする。
- ・性の問題行動・性被害は、人間尊重・男女平等の精神から絶対に許されないことを理解させる。
- ・性的同意や性被害に対処する力や態度“性に関する自己決定能力”を育てる。

学習指導過程

| | 分 | 学 習 内 容 | 学 習 活 動 | 指導上の留意点 |
|-------------|---|---------------------------|--|--|
| 導 入 | | 本時の題材を確認する | 性的同意の意味を近くの人と話す | 本時では、性の問題行動・性被害について、学習することを確認する。 |
| | | 性的同意をわかりやすく説明した紅茶を使う動画を見る | まず動画を見ての感想を聞く。 | |
| 展 開 1 | | 性的同意について説明する。 | 紅茶を「性行為」に置き換えるとどう思ったか、考えたかをワークシートに記入して 5～6人グループ内で発表し合い、意見交換する。 クラス全体にもグループの意見を共有する。 | 性的同意には体に触れる行為も含むことを説明する。性的同意のポイントを説明する。 |
| 展 開 2 | | MeToo 運動について取り上げる | 実際に起こった事例を知り、被害を受けた女性の身体的・精神的・社会的なリスクを5～6人グループで考える。 | 性に関わる意思決定・行動選択においては相手の人生や健康へ大きな影響を与えるため、相手を尊重した行動をとることが必要である |

| | | | | |
|--|--|-------------------------|----------------------|---|
| | | 性に関する自己決定能力 ” について理解する。 | クラス全体にもグループの意見を共有する。 | と伝える。 被害者にも加害者にもならないために、自分を大切にしないといけないことを伝える。行動に際しては、自分の心と身体を大切に考えた、主体的かつ判断力をもった責任ある行動を選択しようとする意識（＝性に関する自己決定能力）を高めるよう指導助言する。 |
|--|--|-------------------------|----------------------|---|